

オリジナル試験 世界史総合 30分 50点

1. 次の文章を読んであとの問いに答えなさい

古代オリエントにおいては、①さまざまな民族の興亡が生じたが、ついには古代オリエントのほとんどを支配する大帝国が成立するに至った。

古代オリエントを初めて政治的に統合したのはアッシリア人である。②アッシリア帝国は、前7世紀前半にはエジプトを含む全オリエントの主要部分を統一し、初の世界帝国と言われる。けれども、服属民族に対する過酷な支配のために帝国への反抗が生じ、前7世紀末に滅亡した。アッシリア帝国の滅亡後には、③4王国が分立するにいたった。

前6世紀半ば、イラン人のアケメネス朝が起こり、(1) のときに4王国のほとんどを滅ぼして帝国の基礎を築き、また捕囚とされていたユダヤ人を解放した。続いて(2) の時にエジプトを征服し、全オリエントの統一に成功した。さらに(3) のときに帝国は最盛期を迎え、ギリシアまで侵攻し④ペルシア戦争を引き起こした。

勢力を誇ったアケメネス朝は(4) 大王の⑤東方遠征により前330年に滅び、彼の没後には、セレウコス朝をはじめとするギリシア系の国家が誕生してヘレニズム文化が栄えた。

やがてセレウコス朝の支配下からイラン系遊牧民が自立して⑥パルティアを建国し、セレウコス朝滅亡後にはメソポタミア地方でローマ帝国と勢力を争うまでに至った。パルティアを倒したのは、イラン人の⑦ササン朝である。ササン朝は、⑧ローマ帝国・東ローマ帝国と抗争を繰り返しながら繁栄を続け、(5) のときにエフタルを倒すなど最盛期を迎え、⑨イラン文明も発展した。けれども、7世紀半ばにイスラーム勢力によって滅ぼされ、以降のオリエント世界はイスラーム世界となる。

(1)文章中の空欄1~5に適切な人名を入れなさい

(2)下線部①について、明白な誤りを含む文章を以下のア~エから1つ選びなさい

ア. アッカド人は、シュメール人の都市国家を次々と征服し、メソポタミア最初の都市国家を樹立した。

イ. ヒッタイト人は、はやくから鉄製武器を使用し、バビロン第1王朝を滅ぼした。

ウ. カッシート人は、バビロン第3王朝としてバビロニアを支配したが、アムル人により滅ぼされた。

エ. アラム人は、内陸都市を結ぶ中継貿易に活躍し、その文字はオリエント世界の多くの文字の源流となった。

(3)傍線部②について、アッシリア末期の首都を答えよ。

(4)傍線部③について、4王国の名前と首都をすべて答えよ。

(5)傍線部④について、480年にスパルタ軍を全滅させた戦いの名称を答えよ。

(6)傍線部④について、この戦争を機にギリシアのポリス間で、アテネを盟主に結ばれた同盟は何か

(7)傍線部⑤について、東方遠征のうち、333年にペルシア軍を破った戦いは何か

(8)傍線部⑥について、この国の建国者は誰か、また首都はどこか

(9)傍線部⑦について、この国の建国者は誰か

(10)傍線部⑧について、ササン朝のシャープル1世はエデッサの戦いでローマ皇帝を捕虜とした。この皇帝の名を答えよ。

(11)傍線部⑨について、ササン朝美術の影響は日本の工芸品にも見られるが、その工芸品が保管された寺院・建物と作品名を具体的に1つ答えなさい。

2. 文章を読んで次の問いに答えなさい。

前43年に始まった①第二回三頭政治を構成する1人であった(1)は、前31年の(2)の海戦に勝利し、これを受けてローマの元老院はアウグストゥスの称号を彼に与えた。そして、アウグストゥスは40年以上にわたって、ローマを統治することになったのである。また彼が統治していた時代は、文芸興隆の時期でもあり②ラテン文学の盛期であった。

アウグストゥスが後14年に死去した後もローマの③元首の地位はティベリウスに引き継がれ、共和政の伝統が復活することはなかった。後1世紀末から後2世紀末まで続いた④五賢帝の時代、ローマは強大な軍事力に裏付けられた平和を享受することになる。そして、ローマ帝国の勢威によって、その制度・文化は広くヨーロッパに拡大していった。そして、実用的な面に秀でたローマ人の文化遺産には現在もその形をとどめているものもある。しかし、表面の繁栄の裏側では帝政ローマの社会は徐々に変化を見せていたのである。

⑤3世紀になると強大を誇ったローマ帝国にも危機が訪れる。北方からはゲルマン人、東方からはササン朝などの異民族が侵入し帝国は分裂の危機に至った。その混乱の中(3)帝が284年に即位した。帝は四分統治などのさまざまな政策を打ち出し、衰退するローマ帝国の再建に尽力した。次に即位した(4)帝も⑥キリスト教の公認や、ビザンティウムを(5)に改称して遷都するなど、様々な政策を打ち出した。しかし帝国の衰退を完全に止めることはできず、中でも375年に始まるゲルマン人の大移動によって帝国領内はさらなる混乱に見舞われた。そこで、395年(6)帝は帝国を⑦東西2つに分割し、2人の子に分け与えた。

(1)文章中の空欄1~6に適切な語句を入れなさい

(2)傍線部①について、第二回三頭政治を形成した人物のうち、(1)以外の2人を答えなさい。

(3)傍線部②について、『アエネイス』を著したのは誰か

(4)傍線部③について、ローマの元首による元首政をカタカナで何というか

(5)傍線部④について、五賢帝を全員答えなさい。

(6)傍線部⑤について、3世紀には帝国内の全自由民にローマ市民権を与えた。この時の皇帝は誰か

(7)傍線部⑥について、この当時キリスト教の教父が活動していた。『教会史』『年代記』などを記し、神寵帝理念を唱えた教父は誰か

(8)傍線部⑦について、西ローマ帝国を476年に滅ぼしたのは誰か

3. つぎの歴史資料を見て、問いに答えなさい。

A. 「①楽浪海中に倭人あり、分ちて百余国と為し、歳時をもつて来たりて献見すと云ふ」

この文は、『漢書』の一節である。次の問いに答えなさい

(1)この歴史書を記したのは誰か

(2)傍線部①について、楽浪とは楽浪郡のことである。これを設置した皇帝の名前を答えよ。また、これを滅ぼした国の名前を答えよ

B. 建武中元二年(57年)、倭奴国、貢を奉じて朝賀す。使人自ら大夫と称す。倭国の極南界なり。②光武賜うに③印綬を以てす

この文は、『後漢書』の一節である。

(3)傍線部②は、光武帝のことである。光武帝は前王朝の時代に起こった農民反乱を鎮圧した。前王朝の名称と、農民反乱の名称をそれぞれ答えなさい。

(4)傍線部③について、この金印は福岡県志賀島で発見された。金印には何と刻まれていたか、漢字5字で記せ

C. 「時の順帝は、上表に応え、詔を以て武を、使持節、都督倭・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓六国諸軍事、安東大將軍とした」

この文は、『宋書』の一節である。

(5)ここでの宋は南朝の1つだが、南朝4王朝を成立順にすべて答えなさい。

D. 「日出ずる処の天子、書を日没する処の④天子に致す。恙無しや、云々」

この文は、聖徳太子が小野妹子を通して607年に隋の皇帝に渡した国書である。

(6)傍線部④は隋の皇帝のことである。607年時点の皇帝は誰であったか

(7)この文章を見て、隋の皇帝は怒ったとされる。しかし、日本に対して答礼使を派遣した。この理由として、隋がある国と関係悪化していたことが考えられる。そして隋は、最終的にこの国との戦争に敗れたことが原因で滅亡した。ある国とは何か。

E. 諸公卿をして遣唐使の進止を議定せしめんことを請ふの状 菅原道真

右、臣某、謹んで在唐の僧中権、去年三月商客王訥等に附して到す所の録記を案ずるに、⑤大唐の凋弊、之を載すること具なり。更に不朝の問を告げ、終に入唐の人を停む。中権、区々の旅僧と雖も、聖朝の為に其の誠を尽くす。代馬・越鳥、豈に習性に非ざらんや。臣等伏して旧記を検するに、度々の使等、或いは海を渡りて命に堪へざる者有り。或いは賊に遭ひて遂に身を亡ぼす者有り。唯、未だ唐に至りては、難阻飢寒の悲しみ有りしことを見ず。中権申し報ずる所の如くんば、未然の事、推して知るべし。臣等伏して願はくは、中権の録記の状を以て、遍く公卿・博士に下し、詳に其の可否を定められんことを。国の大事にして独り身の為のみにあらず。且つは歎誠を陳べて、伏して処分を請ふ。謹んで言す。

寛平六年(894年)九月十四日 大使参議勘解由次官従四位下兼守左大辨行式部

権大輔春宮亮菅原朝臣某

この文章は、菅原道真の奏上文である。

(8)傍線部⑤について、「大唐の凋弊」の原因として考えられるものとして、8世紀に起こった1つの対外戦争で西域支配権を大幅に失った後、国内で起こった2つの反乱によって決定的に「凋弊」したと考えられる。1つの対外戦争と2つの国内反乱とは何か

オリジナル試験 世界史 解答 50点満点

1.(1)1 キュロス2世 2 カンビュセス2世 3 ダレイオス1世 4 アレクサンドロス 5 ホスロー1世

(2) ウ (3) ニネヴェ (4) エジプト (首都 サイス)・メディア (首都 エクバタナ)

リディア (首都 サルデス)・カルデア(新バビロニア) (首都 バビロン) (5) テルモピレーの戦い

(6) デロス同盟 (7) イッソスの戦い (8) アルサケス・クテシフォン

(9) アルダシール1世 (10) ウァレリアヌス帝 (11) 正倉院・漆胡瓶 or 法隆寺・獅子狩文錦

2.(1)1 オクタウィアヌス 2 アクティウム 3 ディオクレティアヌス 4 コンスタンティヌス

5 コンスタンティノーブル 6 テオドシウス (2) アントニウス・レピドゥス

(3) ウェルギリウス (4) プリンキパトゥス

(5)ネルヴァ帝・トラヤヌス帝・ハドリアヌス帝・アントニヌス=ピウス帝・マルクス=アウレリウス=アントニヌス帝

(6) カラカラ帝 (7) エウセビオス (8) オドアケル

3.(1) 班固 (2) 武帝・高句麗

(3) 新・赤眉の乱 (4) 漢委奴国王 (5) 宋・齊・梁・陳

(6) 煬帝 (7) 高句麗 (8) タラス河畔の戦い・安史の乱・黄巢の乱

〈大問3 解説〉

Aは『漢書地理志』で、日本に関する記述が初めて登場した一節である。

Bは『後漢書東夷伝』である。史料には57年という年号があり、後漢の初期に関する文章である。後漢の前王朝はもちろん新であり、新の末期に起こった動乱は赤眉の乱である。

Cは『宋書倭国伝』である。ただし、特に史料に関する問題は出題されていない。

Dは聖徳太子が煬帝に贈った国書である。当時の隋は朝貢を基本としていたが、聖徳太子は対等外交を目指したために、「天子」の表記を隋と日本の双方に使った。これに煬帝は怒ったが、日本に対して答礼使を向けるほど丁寧に戻した。この理由として、隋には高句麗遠征を控えていたことが理由とされる。

Eは今回の史料の中で唯一日本の資料である。菅原道真が遣唐使停止を宇多天皇に奏上したものである。ポイントは最終文の年号で894年とある。また「大唐」「入唐」の表記から、中国の唐について言っているとわかる。

「大唐の凋弊」とあるので、唐の衰退原因を考える。8世紀に西域支配権を大幅に失った戦いはタラス河畔の戦い。唐の衰退原因となった2つの内乱は、安史の乱と黄巢の乱である。